

第 1 回 伊方町総合教育会議議事録

【日 時】 平成 30 年 8 月 27 日（月） 15 : 00～16 : 30

【場 所】 伊方町役場 3 階 特別応接室

- 【次 第】
1. 開会
 2. 町長あいさつ
 3. 教育長あいさつ
 4. 議題
 - (1) 伊方町教育振興に関する大綱について
 - (2) その他
 5. 閉会

【構成員】 伊方町長 高門清彦

伊方町教育委員会

教育長 河野達司

教育長職務代理者 山口千穂

教育委員 阿部勇二

教育委員 藤川美喜

教育委員 阿部弘喜

【事務局】 町長部局

濱松副町長、橋本総合政策課長、ほか担当職員 1 名

教育委員会事務局

菊池事務局長

【傍聴者】 なし

【15時00分開会】

(橋本総合政策課長)

皆様お揃いでございますので、ただ今から、第1回伊方町総合教育会議を開催いたします。

開会にあたりまして、町長からご挨拶をお願いいたします。

(高門伊方町長)

第1回の伊方町総合教育会議にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

この会議は、法律の改正により一昨年の11月に設置いたしました。その目的は、行政と教育委員会が十分な意思疎通を図りまして、本町の教育の課題やあるべき姿を共有しまして、より一層の町民の皆様のご意見を反映した教育行政の推進を図るためのものです。

一昨年の会議におきまして、「伊方町教育振興に関する大綱」を制定しまして、教育行政に取り組んでいるところでございます。

地域の宝であります子どもが、よりふるさとを愛してもらうために、より良い環境の中で学習ができるよう、行政として教育環境を整えて参りたいと思います。

今回、本町の最重要課題であります三崎高等学校の存続問題につきまして、愛媛県知事に陳情書を提出したところでございます。

本日の会議が有意義な会議となりますことを、心からお願いを申し上げまして、開会にあたりましてのごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(橋本総合政策課長)

ありがとうございました。続きまして、河野教育長からご挨拶をお願いいたします。

(河野教育長)

教育委員会を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。平成28年の11月に「教育振興に関する大綱」を策定していただきまして、各施策を支援していただきました。本日は教育委員さんと町長さんにお集まりいただき、教育分野に関しまして様々な意見交換を図っていただきたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

(橋本総合政策課長)

ありがとうございました。当会議の進行につきましては、私、総合政策課長の橋本が会議の進行を進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。それでは会議を進めて参ります。本日は「伊方町教育振興に関する大綱」についてを議題といたします。まず、教育振興に関する大綱の施策の方針に沿った本年度の取組状況について、事務局から説明願います。

(菊池教育委員会事務局長)

それでは、施策の方針に沿った本年度の取組状況について、ご説明いたします。

お手元の資料2ページ、「伊方町教育振興に関する大綱」でございます。これの4ページを開いてもらえたらと思います。この4ページに施策の方針という事で、4つの項目がございます。この4つの方針につきまして、本年度教育委員会で行っている施策等につきまして、ご説明させて頂いたらと思います。

まず、施策の方針1の「学校教育の充実」に関しましては、保育所・学校と家庭、地域との「横の連携」の強化を図り、これからの時代に求められる「生きる力」の育成に重点をおいた教育を推進しております。

中学校では英語によるコミュニケーション能力の育成、小学校では英語学習による異文化とのふれあい、国際感覚を醸成するため、外国語指導助手（ALT）を適正に配置しております。

ICT情報教育につきましては、平成26年度以降、電子黒板については、小・中学校に、タブレットについては、全小学校に導入するなど、ICT情報教育の推進を図り、指導方法の改善を重ね、児童生徒の学力向上に繋げているところであります。

さらに今年度、全小中学校にエアコンの整備やトイレの洋式ウォシュレット化に取り組んでおり、これまで以上に、児童・生徒が快適な環境の下で、授業に集中でき、ひいては、学力の向上に資するものと期待しております。

次に、施策の方針2の「生涯学習・生涯スポーツの活性化」に関しましては、各世代、各地域のニーズに応じた学習活動の活性化に取り組むとともに、心身の健康増進につながる生涯スポーツの普及に努めているところであります。

今年度は、スポーツに関する事業として、拠点施設の経年劣化対策として、伊方スポーツセンターの設備機器の更新や三崎総合体育館の改修をはじめ、将来を見据えた体系的な「スポーツ推進計画」策定や、スポーツ推進の起爆剤として「プロバスケットチーム（オレンジバイキングス）」の公式戦の招致に取り組んでおります。

次に、施策の方針3の「伝統・文化の継承と発展」に関しましては、佐田岬半島の伝統文化と文化財を守りながら、地域の魅力づくりにつながる活動を継続し、町民の文化活動を支援し、町内外にまちの魅力発信に努めております。

今年度は、身近な歴史・文化を守り伝える意識を醸成するため、「地域博物館構想」の策定に向けた検討に着手することとしております。

最後に、施策の方針4「信頼と協働で創る豊かな地域社会の構築」に関しましては、人権文化を根付かせるため、地区別人権・同和教育懇談会をはじめ、各種研修会への参加を支援し、町民が一体となった人権・同和教育を推進するとともに、男女共同参画を推進してまいります。

以上、簡単ではございますが施策の説明とさせていただきます。

(橋本総合政策課長)

ありがとうございました。ただ今、教育委員会から教育振興に関する大綱の施策の方針に沿った本年度の主な取組状況について説明がありました。

それではこの大綱に基づいて、いかに本町教育の充実を図っていくか、これから、意見交換を行いたいと思います。どなたからでも結構ですので、ご発言をお願いします。いかがでしょうか。

(阿部勇二委員)

昨年の会議において、小中学校のエアコン整備について申し上げたところ、早速やっていただくようになりましてありがとうございます。熱中症の問題で全国的にも当たり前になりつつある事もニュースでやっています。また、部活動に対する先生方の負担が重過ぎるとの事で、文部科学省が部活動専門の方を雇用するよう予算を組んでいると聞きました。そういう時代なのかなと思っております。教育委員会の方でも、新しく部活動に対して色々注意すべき事など設けてやっている段階です。

そこで、昨年の会議で私が申し上げた支援を必要としている子どもに対して生活支援として授業に集中させるために支援員が付くという制度があります。伊方町は支援員さんの採用数が非常に多く、他の町より進んでいるんですけども、現在、募集に対する応募が無いのが実態です。小学校の学校訪問で出たんですけど、複式の授業になると上の学年の子に指導している間、下の子に集中してもらえない事が多いと思います。複式問題が出てくるということで、複式の学級に複式支援員を町で雇用してもらえないかという意見が出たんです。調べてみると、愛南町の方でそういう実績があるようです。実際、今年水ヶ浦小学校が統合するわけなんですけれども、水ヶ浦小学校は今4クラスですが、大久・三机小学校は3クラスで単独のクラスが一つもない状況です。いくら少人数とはいえ、一人の先生が2学年見るというのは時間の半分は自習をしているという事になります。先生の目の届くところですが自習をしている。高学年になると慣れて複式が当たり前になりますが、低学年の間はそれが身につくまで授業に集中させるという事を先生一人では厳しいのではないかと思います。やはり、少人数で授業をすることを最大限に生かす、デメリットになる部分はやっぱりカバーしていかないといけないのではと思います。

(河野教育長)

今まで付けていたのは生活支援員です。教員免許も必要ありません。しかし、複式学級で間接指導、町からの学習支援員になると教員免許が必要になります。また、学習支援員も勝手に指導することができません。受持ちの先生の指示に従っての間接指導を行っております。

参考までに、昨年度から愛南町が全複式学級に指導員を付けました。町の負担する費用も、生活支援員より少し高めとなっています。

(高門伊方町長)

要望として理解しましたので、研究させていただきたい。

(阿部勇二委員)

来年の4月からすぐにといいわけにもいかないですし、学校の要望が無かったら良いと思いますが、特に低学年には必要かと思います。

(高門伊方町長)

中長期的な教育環境を展望する中で、統合問題は検討する必要があるかと考えます。昨年度の町の出生数は26人でした。しかし、伊方町の場合、人数だけの問題ではなく、細長い半島という立地条件の中で、交通の便を考えると統合するのは難しい状況です。

(阿部勇二委員)

児童生徒の数だけで考えるのではなく、いろいろな事を考えて今の状況となっています。しかし、学校統合を真剣に考える時期ではないでしょうか。

(藤川美喜委員)

失礼します。先ほど話がありましたように学校へのエアコン整備ですが、子どもたちの命を守るためには仕方がないと安心しております。

私の方から意見と確認したいことが何点かあるので質問させていただきます。

1点目ですが、小学校の英語教育についてです。今年度の学校訪問で英語の授業の見学をさせていただきました。デジタル教材を使いALTによる指導でした。一番気になったのは、スタートが中学校のように免許を持っていない先生が英語の授業を教えている事です。もちろん、ALTや教材を使って工夫をされているんですが、子どもたちが育っていく最初の英語の授業がそれでいいのかという思いがあります。例えば、他の自治体では退職された英語の先生や海外に行った経験のある方を起用して、子どもたちに使える英語、異文化の面白さ、英語に対する興味づけをできるような役割を繋げるスタッフがいれば、先生方も相談しやすいですし、子どもたちの学力的にも良いと思います。

2点目ですが、学校は災害時避難所としての役割を担っているという事です。学校がそれぞれの地区で利用され、学校としての機能を果たせていないように思いました。各学校の防災教育の充実、先生たちに対する研修の機会を与えるのはもちろんですが、子どもたちに意識づけするような機会、自分の命は自分で守るというよう防災教育を進めていただくよう要望します。

(高門伊方町長)

現在、小中学校では防災教育は取り組まれていますか。

(橋本総合政策課長)

先生方も防災士の資格を取りに行かれています。各地区にも自主防災会があり、一人以上の防災士が配置されるよう取り組んでいます。学校でも、職員が独自に資格を取りに行っている状況です。

(藤川美喜委員)

災害はいつ起こるか分からないので、防災訓練の時に区長さん方だけでなく、もう少し学校としても参加すべきと思います。

(高門伊方町長)

行政として、防災教育について検討していきます。

(濱松伊方副町長)

防災教育と合わせてですが、関東から北の地域は学校の方でボランティア教育というものを必須的な感じで教えているんです。しかし、中部から南の地域はしてないようなんです。今の防災事業と合わせてしてみてもどうかと思います。基本的に、親も教えなければ地域も教えないというのも現実問題だと思います。人助けに行った時に、何をすればいいのか分からないという事があります。

(河野教育長)

町内においては、毎年各学校においてローテーションでやっています。今年は瀬戸中が行いました。防災セミナーも順番にしています。また、先生を対象とした防災教育も愛媛大学から講師を呼んで講習をしております。

(高門伊方町長)

児童、生徒に対してもという事ですか。

(藤川美喜委員)

特に、中学生に知っていてももらいたいですね。

(河野教育長)

学校の方も、地域と一緒にした防災訓練、避難訓練を計画しております。

(高門伊方町長)

英語指導の件ですが、公営塾の先生に指導していただくのはどうでしょうか。ぜひとも、活用していただきたい。隠れた指導者の発掘をどうするかですので、教育委員会でもアンテナを張って情報収集をしていただきたい。

(河野教育長)

A L Tは、小学校へは週に1回行ってもらっています。この9月から、小学校に1人専属で雇ってもらいました。その方には今年度中は、伊方小学校を本拠地にしてもらっています。その方は日本語かなり話すことができます。

(阿部弘喜委員)

伊方町は学校教育、生涯学習でも、私が知る限りは他の町より良くして頂いていると思います。その中で、大綱の2番目の生涯学習・生涯スポーツの活性化に

ついて、もう1点は三崎高校について話をさせていただきます。

まず、1点目は長寿社会になって生涯学習・生涯スポーツが大事な時代になってきていると思います。その中で、伊方町は生涯学習室で年間を通じてやっています。岡山のシーガルズやプロバスケットの事業です。子どもの数が少なくなっているのがありますが、正直、スポーツ自体活発ではなくなっている。老人会のゲートボールとペタンクは生涯スポーツが定着した姿で、健康に過ごすことができている要因の1つだと思います。そこで、年に1回大きな町民運動会をしようとかではなく、そういう風なもう少し皆でやれるような事をしたらもっと活発になりそうな感じがします。町全体が賑やかで元気にやっていけそうな取組みがないかなと思います。プロの方を呼ぶのも方策の1つで良いんですが。宇和島では男女ともに柔道が盛んで、新田高校の柔道部に宇和島から行っている子が結構多いそうです。野村は、相撲大会などを行って町全体で取り組んでおります。そのような何か皆で取り組めるものを作ってみたいらどうでしょうか。

2つ目は三崎高校です。伊方町唯一の高校ですので公営塾に取組み、存続に向けて努力しておる姿をお見受けするんですが、多額のお金も支出していると思います。三崎高校だけでなく、県内でも他の高校も定員割れで分校化になりそうです。改善に向けて具体的な取組みをどうするか、町長の考えを伺いたいと思います。

(高門伊方町長)

現状の生徒数を見ると、八西地域で高校が1校でも良いくらいです。しかし、町の立地条件を考えると、近隣であれば子どもの通学は難しく下宿をしなければならなくなり保護者や生徒の負担が増える事となります。そのためにも、町内に高校を存続するよう県へ要望していきたいと考えます。

(阿部弘喜委員)

公営塾の先生方は面白くて良いのですが、進学するための勉強になるとやはり八幡浜高校に行くんです。三崎高校で特色のある農業や漁業を教えるとか、何か違った面で三崎高校に行ったらこんな事が教えてもらえるという発達の転換が必要かと思います。普通の進学塾だけだと限界があるのではと思います。

(高門伊方町長)

宇和島水産高校も定員割れしており、普通科への希望が多いようです。川之石高校は総合学科で人気が出ています。

(阿部弘喜委員)

三崎高校の公営塾に、あれだけの先生を集めて頂いてありがたいことです。

(阿部勇二委員)

公営塾を三崎高校生だけではなく、今年は夏休みの出前授業を各中学校に行ったんですけど、公営塾を町全体で活用できるように人材を集めていただきたい。

(高門伊方町長)

当面の目標は、公営塾の取組みにより、高校存続するために生徒41人を確保する事です。それをクリアして、次のステップとして考えていきます。

(阿部勇二委員)

公営塾の先生方と話をしたんですが、若い方々で本当に頭が柔らかくていろいろな考え方を聞きました。自分はこんな事ができるんだと胸を張って言っていました。

(高門伊方町長)

現在、伊方中で活動している部活はどれくらいありますか。

(菊池教育委員会事務局長)

卓球、野球。バスケは今いるメンバーが卒業するまでです。水泳部は個人でやっていて、今やっている人だけにして来年廃部予定となります。

(高門伊方町長)

種目を絞った部活、季節によって変える部活というのはどうでしょうか。

(河野教育長)

いろいろなやり方があるんですが、伊方町のガイドラインに載せているので検討してくれとの事でした。春頃は野球、冬はサッカー、そういう風にしてもいいんじゃないかなと思います。ただ人がいないのでチームができない状況です。

(阿部弘喜委員)

中学校総体の結果も2位か敗退で、子ども達も強くなりたいだろうに人数が少なく、部活も限られてくるでかわいそうです。

(河野教育長)

特に現在は八幡浜市の大会と一緒にしているので、規模が大きいところは層が厚いので厳しいところがあります。

(阿部勇二委員)

今年の中学校の県総体に行けたのは卓球と水泳と陸上の個人だけ。人がいないからといって、個人競技の部活を無くすのはどうかと思います。

(藤川美喜委員)

陸上を基本にするとか、陸上なら個人で伸びる子は伸びると思います。

(山口千穂委員)

学校再編計画の中で、任期中の8年間の間に4校が無くなってしまいました。

子どもがいないというのが一番ですが、伊方町は教育環境とか子どもを育てる環境・支援が色々あって、八幡浜市から来られた先生が、ICT教育の設備を見てすごいと言っておりまして教育環境が恵まれていると思うんです。この辺では一番整っていると思います。これを売りにして、「伊方町で子どもを育てませんか」と移住・定住の対策を行っていただきたい。人に住んでもらわないと子どもも増えません。大変ですが、そこからやっていかないといけないと思います。

(高門伊方町長)

仕事がない事が一番の問題で、新しい企業でもあって仕事ができる環境があれば伊方町に住みたいと思う人が出てくると思うんです。原発の状況では、聞く話では下請け等の事業所が他所に移るという風な事も聞きます。今、伊方町はもがきの状況かなと思っております。仕事の面に関して力を入れていかないといいが、なかなか良い知恵が出ていない状況です。

(山口千穂委員)

八幡浜市の方では学童が待機児童みたいになっていて、伊方町はそんな事は無いです。それでしたら、夫婦で共働きしながら生活の拠点を伊方町に置いて、そこで子ども達を育てながら仕事は外でと、そういう風にするのはどうでしょうか。

(高門伊方町長)

逆で八幡浜市に住んでいてこちらに働きに来ている。これも頭が痛いところですが、若者に聞くと伊方町に住みたいが住む場所が無いと聞きます。現在、住宅を探すか造るかを課題として取り組んでいます。

(阿部弘喜委員)

保内は新しいマンションがどんどん建てているじゃないですか。最近の若い子は家を建てず、マンションに住む方が良いという傾向です。町も一戸建てを建て補助をするとかを行う事によって空き家対策にもなります。マンションをどこかに建てろというわけではなく、一戸建てを土地があるのだから建てる方向にしてみてもどうですか。

(高門伊方町長)

昨年売り出した分譲地ですが、結構倍率があって申し込みも多かったのもので、このような手法でやってみてはどうかと思っています。

湊浦が良いと言っている方が多いです。生活の利便性と地域の集まりが割合少ないからというところもあると思います。

(山口千穂委員)

九町小学校の生徒の半分はアパート暮らしで、地元の子はそうはいません。アパートやマンション建てたら若い人達が入ってきて、子どももおりというのが理想ですが、湊浦は土地が無いですね。

(阿部弘喜委員)

農業でも漁業でもメインの産業なのに1番がない。味は魚でもみかんでも負けないのに、宣伝も必要だと思います。

後継者不足には親にも原因があると思います。農業、漁業をやりたいと子どもが言っても親が止めるような時代です。それで、後継者と言っても育たない。30年して、やっとみかんの収入が安定してきました。

(橋本総合政策課長)

貴重なご意見、ご提案ありがとうございます。

続きまして、(2) その他として、「伊方町いじめ問題対策連絡協議会の設置について」を議題と致します。教育委員会事務局から説明願います。

(菊池教育委員会事務局長)

資料の9ページをお開き願います。「伊方町いじめ問題対策連絡協議会の設置について」説明させていただきます。

まず1の「設置目的」ですが、この協議会は、いじめ防止対策推進法第12条の規定に基づき、11ページ以降に記載しておりますが、平成30年1月に策定しました「伊方町いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ問題への組織的な取り組みを推進するため設置するもので、町内での共通理解を図り、町全体で総合的ないじめ対策を行うことを目的としております。

次に、2の「所掌事務」につきましては、(1) この方針の推進並びに関係機関及び団体の連携に関すること。(2) いじめ及び不登校等に関する情報交換、連絡調整等に関することその他、教育委員会が必要と認めることとしております。

以下、組織は、委員20人以内で教育委員会が委嘱することとし、任期は、2年、開催回数は、概ね2回とし、人選につきましては、10ページの名簿のとおり考えております。

先ほども申し上げました、「伊方町いじめ防止基本方針」につきましては、後程お目通しいただきたいと思いますが、いじめ防止に関する教育委員会としての取り組みについて、ご理解ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

説明は以上です。よろしくお願いいたします。

(橋本総合政策課長)

ただ今、教育委員会から説明がありましたが、伊方町いじめ問題対策連絡協議会の設置について、ご意見等がありましたら願います。

(河野教育長)

補足説明になりますが、いじめ問題を防止していくため連絡協議会を20人以内で設置するんですが、これは条例を策定して条例に基づいてやっていくものです。現実的に町内の学校にも深刻な事態に繋がりがねないいじめ問題が発生しておりますので、急いでできるなら条例より先に組織づくりをさせていただくということで、ご了解いただけたらと考えます。

もう一つは、いじめが原因で自殺者が出たり、学校に来なかったりした場合は重要事態として扱って、第三者に調査に入ってもらわないといけません。これは教育委員会はもちろん町として動いていかないといけません。これについては、例えば、大学教授、弁護士、医師等を専門的に雇わないといけませんので、この辺りの依頼をしていかないといけないという事になっております。

(高門伊方町長)

条例の制定は、いつ頃になりそうですか。

(河野教育長)

実際には協議会を立ち上げていますが、条例までに至ってないところです。参考までですが、この近辺では内子町が条例を制定した上で協議会の設置という風にしております。八幡浜市は協議会はあるんですけど、条例までは制定していません。

(高門伊方町長)

条例をする時期、教育委員会の方で協議していただいて下さい。町内のいじめの事案はどうなっていますか。

(菊池教育委員会事務局長)

昨年度中学校で2件、小学校で3件があり、どんな小さなことでも必ず報告するようにお願いしていますので報告が上がってきます。小さい事案もありますが、重要事態になりかねないものもありました。現在のところ、一応は治まっているとの事です。

(濱松伊方副町長)

不登校はどうですか。

(菊池教育委員会事務局長)

伊方中学校で2人、九町小学校でも1人です。しかし、原因はいじめではないとの事です。

(橋本総合政策課長)

ありがとうございました。

そろそろ、お時間となりますが、最後に何かございますか。

それではいろいろなご意見を頂きましたけれども、このあたりで協議を閉じさせていただきます。

最後に、濱松副町長に閉会のご挨拶を頂きます。

(濱松伊方副町長)

限られた時間ではありましたが、なるべく委員の皆さんのご要望に応えられるよう教育環境を整えていけたらと思いますので、今後ともいろんなご意見をお願いいたします。本日はありがとうございました。

(橋本総合政策課長)

ありがとうございました。

以上で、第1回 伊方町総合教育会議を閉会いたします。本日は、ありがとうございました。